

事業所名 グループホーム町屋
運 営 推 進 会 議 開 催 報 告 書

開催日時 2022年 8月 22日(月)	
参 加 者 (意見照会)	議 題
利用者 0名	① 行事報告
利用者家族 0名	② 行事予定
地域住民の代表者 0名	③ 身体拘束適正化検討委員会
市職員 1名	④ 意見照会
地域包括支援センター職員 1名	
事業所 0名	
会 議 録	
<p>2022年8月22日に行う予定でしたが、コロナウィルス感染拡大防止により開催を中止します。今回開催分も意見照会にて行いたいと思いますので、ご協力の程、宜しくお願い致します。</p> <p>① 行事報告</p> <p>1号館・2号館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月7日 七夕 各利用者様、様々な願いを込めた短冊を書いて頂きました。レクリエーションで作って頂いた七夕飾り、短冊を笹に飾り付けをしました。皆様、飾り付けなどを楽しそうにご参加頂きました。 ・7月22日 土用の丑の日 昼食時にうなぎ丼を提供させて頂きました。皆様、とても美味しそうにうなぎ丼をお召し上がり頂けていました。 ・8月16日 昼食時にそうめん、いなり寿司、天ぷら(なす・ピーマン・玉ねぎ)を提供させて頂きました。皆様、好きな天ぷらやそうめんをおかわりをされ沢山お召し上がり頂きました。 <p>2号館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月1日 誕生日会 おやつ時に誕生日会を行いました。おやつには、わらび餅パフェをお召し上がり頂きました。利用者様、職員で誕生日の歌、お祝いの言葉を贈り、お祝いをさせて頂きました。誕生日の利用者様もとても楽しそうにお過ごし頂きました。 	

② 行事予定

1号館・2号館

- ・9月 敬老の日、誕生日会
- ・10月 秋の味覚祭

③身体拘束適正化検討委員会

◆スピーチロックから繋がる身体拘束について

- ・スピーチロック（言葉の拘束）とは

スピーチロックとは言葉によって身体的、または精神的な行動を抑制することです。

「言葉の拘束」とも言われており、介護の現場でよく使われることが多い「ちょっと待っていてください」や「危ないから席に座っててください」などの言葉が該当します。

- ・3つのロックとは

3つのロック（名称）	内容
フィジカルロック（身体拘束）	身体を物理的に拘束して、動けないように制限すること
ドラッグロック（薬物拘束）	薬物の過剰投与や不適切な投与で、行動を抑制すること
スピーチロック（言葉の拘束）	言葉によって身体的、または精神的な行動を抑制すること

介護の現場で発生し得る「身体拘束」は、上記のような3つのロック（フィジカルロック、ドラッグロック、スピーチロック）と定義されています。フィジカルロックやドラッグロックは道具が必要なので気を付けやすいものの、スピーチロック（言葉の拘束）は見た目的な変化がなく、誰でもついやってしまう恐れがあるのが特徴です。

普段、何気なく使っている声掛けは、利用者様の行動や言動を抑制してしまっているかも知れません。介護職員一人ひとりが「今の声掛けは、スピーチロックになっていなかったかな？」と考え、ケアを行うことが大切

です。

- ・介護施設の現場でスピーチロックが起きてしまう原因

- ◆人手不足で余裕がない

人手不足の介護施設では、介護職員一人ひとりへの負担が大きくなります。少ない人数で業務をこなし、利用者様の見守りなども行わなくてはならないため、余裕もなくなりやすいです。利用者様が何か頼みごとをしたと思ったときに、すぐに対応できないことも多く、そのような際にスピーチロックにあたる声掛けをしてしまいます。

- ◆ケアの対応が重なってしまう

介護施設では、多くの利用者様が入居されており、ケアの対応が重なってしまうことがよくあります。その際、「ちょっと待っていてください」と声掛けしてしまいそうになりますが、これもスピーチロックにあたってしまうです。

- ◆転倒リスクの高い利用者様が動かれる

介護施設には、転倒リスクの高い利用者様もいらっしゃいます。たとえば、車いすに座っている方が立ち上がろうとして車いすを動かしていたり、付き添いの必要な方が一人で歩いていたりしたとします。「危ないので、一人では動かないでください」と声掛けしてしまうことは、安全を思っている言葉だったとしても、スピーチロックにあたってしまうのです。

- ◆スピーチロックが相手に与える影響

- ① 行動意欲や ADL の低下

行動意欲の低下につながる原因として、強い口調での声掛けや長時間待たされることが挙げられます。また、スピーチロックによって身体的、精神的な行動を抑制されるとマイナスな感情も発生しやすくなります。利用者様が意思表示をしたり、行動を起こす機会が減ってしまうことは、ADL（日常生活動作）の低下にもつながりかねません。利用者様の行動意欲や、ADLを低下させない声掛けを意識することが大切です。

② 認知症を患う高齢者の症状の悪化

認知症を患う高齢者の場合、言われたことは忘れてしまっても、感情は強く残ります。

「無視をされた」「ひどく怒られた」など、そのときに抱いた感情は、被害妄想やせん妄（高齢者に多く発症する一種の意識精神障害のこと）につながりかねません。介護職員への拒否が強くなったり、症状が悪化してしまうこともあります。症状の悪化を防ぐためにも、利用者様にストレスを感じさせないような声掛けをしましょう。

③ 介護職員とのコミュニケーションにおける問題

人手不足の施設で業務が多く、一人ひとりへのケアが行き届かない状況では、介護職員の余裕もなくなってしまいます。しかし、余裕がないからといって、スピーチロックをし続けてしまうと、利用者様からの信頼を損なってしまいます。信頼を損なってしまえば、コミュニケーションにも大きな影響を及ぼし、利用者様が安心して生活することが難しくなってしまいます。利用者様を一人の人間として尊重する気持ちで、ケアを行うことが大切です。

◆スピーチロックを防ぐための取り組み

① 利用者様の立場になって考える

「この声掛けをしたら、どんな気持ちになるだろう」と、常に利用者様の立場になって考え、自分がされて嫌な気持ちになる声掛けは、きっと相手も同じような気持ちになります。また、日常的に一人の人間として尊重し、コミュニケーションを取るようになっています。

② 声掛けする際に、言い換え表現を意識する

声掛けをする際は、言葉の言い換え、語尾を柔らかくする事に注意しています。「ちょっと」や「少し」、「待ってて下さいね。」などのような曖昧な表現や抑制する表現ではなく、「あと〇分」、「次、行きますからね。」などと具体的な時間、内容を伝え、納得して頂ける様に取り組んでいます。

また、立ち上がられた利用者様には、「座ってって下さいね。」と抑制する声掛けではなく、何故立ち上がったのかの目的を伺う為に、「ど

うされましたか？」などの声掛けを行うようにしています。また、目的を説明出来なくても、トイレに行きたいのではないか？、パットが濡れて気持ち悪いのではないか？など、個々の利用者様にあった理由を考える様にしています。

③ 研修や会議などを行い、職員の理解を深める

定期的に研修や会議などを行い、スピーチロックへの理解を深める機会を作っています。職員が問題意識を持ち、他の職員との情報共有を行うことで、利用者様へのサービスの質の向上にもつながります。研修や会議で話し合ったことを、現場でも活かせるように取り組んでいます。

◆まとめ

利用者様が何かをしようとするのには、必ず「目的」があると思います。

スピーチロックは、見た目的な変化がなく、3つのロックの中でも特に注意が必要な身体拘束の一種です。介護施設の現場では、人員不足などが原因で特にスピーチロックが起きやすいといえます。スピーチロックが利用者様に与える影響は大きく、認知症の悪化やADLの低下を招いてしまいます。普段から言い換え表現を意識し、研修などを行うことは、スピーチロック防止につながると思います。

また、利用者様を一人の人間として尊重する気持ちを持つことも大切だと思います。まず、相手の立場を考えた声掛けを意識し、スピーチロックを行わないケアを今後も取り組んでいきたいです。

④ 意見照会

◇【市職員様】

身体拘束の中でも、スピーチロックは目に見えないため、難しい課題であると思います。

スピーチロックを防ぐための取り組みとして、「研修や会議などを行い、スピーチロックへの理解を深める機会を作っている。」とありますが、職員から日々の利用者様へのケアの中での反省点など具体的な意見はありますか。

◆ご意見ありがとうございます。2か月に1度開催されています、事業所合同での勉強会にて定期的にスピーチロックや身体拘束の勉強会を行い、身体拘束への理解を深めています。（コロナ禍により、現在は書面にて行う。）また、職員からは、他の利用者様を介助中に、多動で転倒リスクが高い利用者様が動かされた時に、とっさに「〇〇さん、座って下さいね。」と言ってしまった事があるという意見が出ました。職員は、「座って下さいね。」がスピーチロックに繋がる事は理解していたのですが、転倒したらいけないと思い、言葉が出てしまったとの事でした。今後ですが、施設では介助が必要な方の対応が被ってしまう事があります。「座って下さいね。」では、なく「次、行きますね。」「どうされましたか？」など、抑制する声掛けではなく、何故立ち上がったのかを伺う対応を、職員一同行っていきたいと、改めて思いました。

◇【地域包括様】いつもお世話になっております。人手不足の中においても、ご利用者の尊厳を守るため様々な取り組みと配慮をされていると感じ、私達自身も学ぶ点が多いと思いました。今後も引き続き、よろしくお願いいたします。

◆ご意見ありがとうございます。介護従事者の人手不足は、どこの事業所も抱えている問題かと思えます。その中で、職員が協力し、チームケアを行う事が必要ではないかと考えています。今後も、利用者様により良いケアが提供できるように取り組んで行きます。